

はじめまして



はじめまして

「はじめまして。」皆さんご存知のとおり、この言葉は初めて会う人に対して使う日本語で、2002年、ケルンの日本文化会館で私が初めて使った日本語です。そこから私は日本語の一步を踏み出しました。17歳の高校生の時に、空手と一緒に趣味として始めた日本語が、今では仕事の一部分になっています。さらに、その一步のおかげでこの素敵な下野市に来ることができました。

私はマシアス・ブリッタスドーフ (Matthias Bittersdorf) と申します。ドイツの有名なライン川が流れているケルンと言う町から来ました。昭和60年にケルンで生まれて、ボン大学とボーフム大学で東アジア政治を学びました。

他の同級生とは違い、アニメや漫画ではなく空手を通して日本に興味をもちました。その興味のおかげで高校を卒業した後すぐに、ワーキング・ホリデーで東京に一年間滞在しました。その時に、大学に進学したら日本の文化や政治について勉強することを決意しました。また、滞在中に日本の美味しい料理と日本人の親切が私の心を温めました。一つのエピソードを紹介します。

マイ国人を目指して

ちょうど日本に着いた一日目のことです。日本の地理にまだ慣れていなかった私は、アパートを探しながら道に迷ってしまいました。さらに、その時台風が接近中で、強い雨風でびしょ濡れになってしまいました。そんな困っている外国人の私に、一人の通行人が自分の傘を貸して私のアパートまで連れて行ってくれました。日本以外のどの国でこのような事が起きるでしょうか？

そういう訳で、下野市の国際交流員としてその親切に恩返しできるのが本当に嬉しいです。また、今までに私は東京に2年程住んだことがあります。今回は日本の伝統が色濃

く残る下野市で、地域独特の伝統や料理を体験することを楽しみにしています。もっと日本語をうまく使いこなせるようになって、少しでも早く下野市の一員として活躍したいです。他の国際交流員の言葉を借りますが、外国人からマイ国人に早くなるように頑張ります。

近いうちにグリムフェスティバルなどの様々なイベントが下野市で行われると聞いています。それらのイベントで皆さんと知り合いになったら、直接「はじめまして」を言うことができるのを楽しみにしています。では改めて、皆さんはじめまして。これからどうぞよろしくお願いたします。



故郷のケルン。人口約100万人の都市。上の写真はユネスコ世界遺産にもなっているケルン大聖堂。

(出典：ウィキペディア、著作者：ロルフハインリッヒ(ケルン))